

# 群馬イノベーションアワード2021・トップ座談会④

座談会の4回目は、座長の大竹良明・冬木工業社長ら11人が、「Withコロナ・Afterコロナにおける、わが社のイノベーション」をテーマに、コロナ禍による危機を乗り越える中で見えてきた、これからの企業や新規事業のあり方などについて意見を交わした。(原則金曜日掲載)



## 人との交流大切に 高機能綿で新商品 デジタル化を推進

大竹 冬木工業は、高崎市で総合建設業と建築鉄骨の製造・組み立てを2本柱としている。建築業界では、木材の「ウッドショック」だけでなく、鋼材による「アイアンショック」が起きている。世界の動向は足元ばかり見ていたから分らない。今回の座談会のように、業界の垣根を超えた交流と情報交換が重要だと感じている。

「コロナを経験し、デジタル化が進んでも、人との触れ合いが大事と実感した。会社経営においても、仕事を頼んで良かった」「仕事を受けて良かった」「勤めて良かった」「地元であつて良かった」と思ってもらえる、人を大切にした魅力ある会社を目指していきたい。

小淵 小淵警備保障は、伊勢崎市で警備業や電気工事・介護事業をグループで展開している。コロナ下で、対面の重要性や警備員の人間力が問われていることが分かった。メインの交通誘導警備は深刻な人手不足と、仕事量が季節により変動するので安定しない



大竹良明氏



芳子ビューエル氏



石井繁紀氏



山崎健氏



小淵豊太郎氏



広山悟氏

# 危機 ポジティブに転換

「最悪」想定し前進 山崎氏  
山崎 国際警備は今年50周年。県内で機械警備や警備業務を行っている。コロナ禍の中、デジタル化を推進した業務体制の改革を実行した。クラウド上のデータベース構築のほか、設計業務プロセッサ改革をデジタルで構築し定着化を進めている。設計は技術サービ

ス構築のほか、設計業務プロセッサ改革をデジタルで構築し定着化を進めている。設計は技術サービ

「最悪」想定し前進 山崎氏  
山崎氏  
山崎 国際警備は今年50周年。県内で機械警備や警備業務を行っている。コロナ禍の中、デジタル化を推進した業務体制の改革を実行した。クラウド上のデータベース構築のほか、設計業務プロセッサ改革をデジタルで構築し定着化を進めている。設計は技術サービ

「最悪」想定し前進 山崎氏  
山崎氏  
山崎 国際警備は今年50周年。県内で機械警備や警備業務を行っている。コロナ禍の中、デジタル化を推進した業務体制の改革を実行した。クラウド上のデータベース構築のほか、設計業務プロセッサ改革をデジタルで構築し定着化を進めている。設計は技術サービ

「最悪」想定し前進 山崎氏  
山崎氏  
山崎 国際警備は今年50周年。県内で機械警備や警備業務を行っている。コロナ禍の中、デジタル化を推進した業務体制の改革を実行した。クラウド上のデータベース構築のほか、設計業務プロセッサ改革をデジタルで構築し定着化を進めている。設計は技術サービ

会社だが、多様性を取り入れながら活躍できる人材を育てていきたい。

5日、休めない。コロナ感染者やクラスター発生を想定し、雇用を増やすなどしてバックアップ体制を構築した。ストレスチェックも多めに実施している。コロナは沈静化しているが、冬にはインフ

ルエンザの流行も予想される。気を緩めず、第6波に備えていきたい。

まな事態を想定し、失敗から教訓を得ながら、新しいことを考え続けることが重要と感じている。

「コロナ下では、児童生徒に一人一台の情報端末を配備する」「GIGAスクール構想にも携わったリモートワークの拠点として、県庁32階の官

足で稼ぐアナログな営業が強みだったが、デジタルマーケティングに着目した。名刺管理システムを使ったDMやメールでウェブ講習を誘導する展開を始めている。地域密着のIT企業として、県内の先駆けとなるよう発展させていきたい。

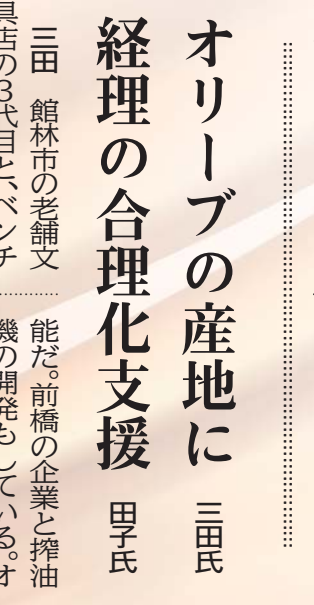
過ぎた。中小企業の経営者と共に成長し、課題解決を図っていく。会計事務所を目指している。



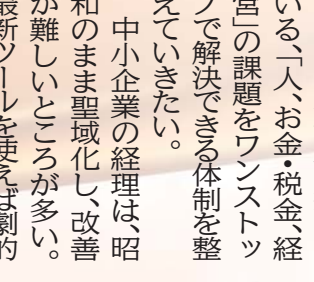
田子宏美氏



三田英彦氏



宮沢文彦氏



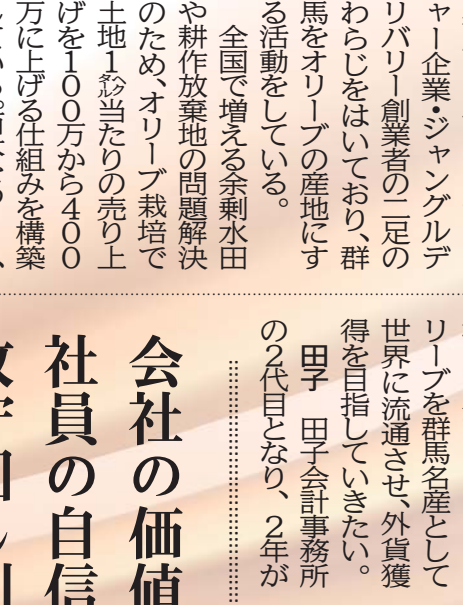
竹内一普氏



三田英彦氏



宮沢文彦氏



竹内一普氏

# 危機 ポジティブに転換

「最悪」想定し前進 山崎氏  
山崎氏  
山崎 国際警備は今年50周年。県内で機械警備や警備業務を行っている。コロナ禍の中、デジタル化を推進した業務体制の改革を実行した。クラウド上のデータベース構築のほか、設計業務プロセッサ改革をデジタルで構築し定着化を進めている。設計は技術サービ

「最悪」想定し前進 山崎氏  
山崎氏  
山崎 国際警備は今年50周年。県内で機械警備や警備業務を行っている。コロナ禍の中、デジタル化を推進した業務体制の改革を実行した。クラウド上のデータベース構築のほか、設計業務プロセッサ改革をデジタルで構築し定着化を進めている。設計は技術サービ

「最悪」想定し前進 山崎氏  
山崎氏  
山崎 国際警備は今年50周年。県内で機械警備や警備業務を行っている。コロナ禍の中、デジタル化を推進した業務体制の改革を実行した。クラウド上のデータベース構築のほか、設計業務プロセッサ改革をデジタルで構築し定着化を進めている。設計は技術サービ

## 座談会参加者

大竹 良明・冬木工業社長  
おおたけ・よしあき 1960年、安中市生まれ。大学卒業後、約19年間の銀行勤務を経て、2003年に総合建設の冬木工業に入社。08年から現職。県鉄構協同組合理事長、全国鐵構工業協会理事。

芳子 ビューエル  
アルトスターCEO  
よしこ・びゅーえり 高崎市出身。高校卒業後にカナダ留学。昨年10月、自ら起業した輸入商社アベックス社長を退任し、現職。著書に「私を幸せにする起業」など。北欧のライフスタイルを提案。

石井 繁紀  
石井設計グループ代表  
いしい・しげのり 1964年、前橋市生まれ。大学卒業後、石井設計に入社。2004年から石井設計、石井アーキテクトパートナーズの社長を務め、15年に石井アーバンデザインリサーチを設立。1級建築士。

小淵 豊太郎  
小淵警備保障常務  
おぶち・とよたろう 1987年、伊勢崎市生まれ。製菓会社の営業職を経て、2014年に小淵警備保障に入社。16年から現職。インソールメーカーBMZと座談会で知り合い、共同で商品開発に取り組む。

山崎 健・国際警備社長  
やまざき・けん 1969年、東京都生まれ。大学院で危機管理を学び、修了後に米国留学して3年間、危機管理を研究。97年、27歳の時に国際警備に入社し、2012年から現職。「危機管理のプロ」を自認。

広山 悟  
システム・アルファ社長  
こうやま・さとる 1960年、渋川市生まれ。84年、地元でUターンし、システム・アルファに入社。創業40周年を迎え、人とのつながりを大事にして「存在感」のある会社を目指す。

三田 英彦  
ジャングルデリバリー社長  
みた・ひでひこ 1964年、藤岡市生まれ。NECを経て妻の実家の三田三昭堂に入社し、95年に代表就任。GIA2017のイノベーション部門賞を受賞を機にジャングルデリバリーを起業、オーブ栽培に取り組む。

田子 宏美  
田子会計事務所代表  
たご・ひろみ 1980年、前橋市生まれ。税理士、中小企業診断士。名古屋で勤務後に帰郷し、2019年から現職。女性経営者、起業家の支援、事業承継、コンサルティングに力を入れている。



宮崎雄一氏

宮崎 雄一・HAWORD社長  
みやざき・ゆういち 1972年、熊本市生まれ。2001年に群馬県に移り住み、イタリア料理を学ぶ。13年にイタリアンレストラン「ピッツェリア・ベスカ」を開店。前橋市で2店舗を展開する。

竹内 一普・プリエッセ社長  
たけうち・かずゆき 1969年、高崎市生まれ。大学卒業後、京都公益社を経て97年に帰郷し、武内葬儀社(現プリエッセ)へ入社。創業120年の2014年から現職。一級葬祭ディレクター。高崎観光協会副理事長。

宮沢 文彦  
ボルテックス社長兼CEO  
みやざわ・ふみひこ 1965年、前橋市生まれ。89年に大学卒業。証券会社経験後、不動産会社で営業部長として不動産コンサルティングなどを手掛ける。99年にボルテックス設立。

「コロナ下で社員やスタッフに危機感が芽生え、組織力が高まった。今後、ただ空腹を満たすためではなく、店を選んで行く時代になる。対応するには「全ての人を幸せに」という願いを込めた経営理念ハベネスへの理解を深め、会社の価値をスタッフが共有して磨いていくことが大切だ。

「コロナ禍は厳しいものだったが、感染対策や、感染者の遺体を持ち去るためのマニュアル作りなどを通じて、社員が地域に必要とされているという自信を持てたのは収穫だった。葬儀に対する価値観は時代により変化していくが、今後もご遺族に寄り添ったサービスを心掛けていきたい。